

ユニシス

次世代オープン勘定系システム

『Bank Vision®』を中核とした

新基幹系システムが北國銀行で稼働開始

—— 日本ユニシス、ユニアテックス



Bank Vision®と同一のオープンミドルウェア『MIDMOST®』の通信機能を搭載することで、通信サーバレスのシステム構成を実現し、障害ポイントの削減に寄与しました。

日本ユニシスが提供している次世代オープン勘定系システム『Bank Vision®』を中核とする北國銀行の新基幹系システムが2015年1月4日から稼働しました。北國銀行は今後の新規業務への対応や新商品・新サービスの提供に向けた迅速なシステム開発が可能となったほか、万が一、大規模災害でシステムがダウンした場合も復旧時間の大幅短縮を実現するなど、従来以上にタイムリーかつ高品質なサービスを同行のお客様に提供することができます。

Bank Vision®は、地方銀行における基幹系オープンシステムとして10行で採用されており、稼働実績は今回の北國銀行で9行目となります。また、地方銀行では初採用・初稼働となる営業店システム『BANK FIT-NE®』、国際勘定系システム『Open ARK®』も納入。BANK FIT-NE®では営業店端末に

今回は、勘定系システムとともに営業店システムも一斉更改するために、全店舗の端末の入れ替えを2日間で行いました。

今後は、北國銀行を含む地方銀行の基幹系システムの構築実績を活かして、Bank Vision、BANK FIT-NEおよびOpen ARKを地方銀行の多種多様なニーズに幅広く対応できるシステムとして販売体制を強化していきます。

ソリューション

電力事業者向け顧客料金計算システム

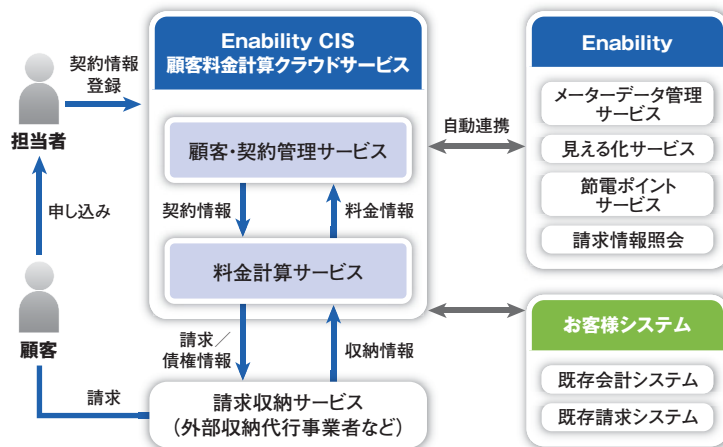
『Enability® CIS』の販売を開始

—— 日本ユニシス

2016年4月から始まる電力小売の全面自由化に向けて、新規参入事業者が増えています。すでに特定規模電気事業者として、2015年1月14日現在483社以上の事業者が登録され、異業種からの参入も急増しています。しかし、新規参入事業者が電力小売のビジネスを立ち上げるためには、さまざまな事業リソースが必要となります。なかでも電力事業を運営するための顧客管理や、電力料金を計算するシステムなどの導入ニーズは、今後ますます高まると想定されます。

そこで日本ユニシスは、クラウド環境で利用できる電力事業者向けの顧客料金計算システム『Enability® CIS』の販売を2014年12月から開始しました。本サービスは、あらかじめ各電力会社の主な電気料金メニューがセットされているほか、収集した電力使用量

Enability CISサービスの概要



に応じた電気料金の計算から顧客情報の管理までをクラウドサービスで提供します。それによって情報システム構築のコストを軽減し、短期導入が可能となり、新たに電力小売に参入する電力事業者の事業リスクを低減します。また、当社が提供する電力見える化ポータル『Enability®』とも連携し、高圧一括受電事業者(※1)向けのMEMS(※2)サービスとして利用も可能です。

※1 高圧一括受電事業者

電気を高圧で一括購入し、マンション内の設備で低圧に変換することで電気料金を低減するサービスを行う事業者。

※2 MEMS (Mansion Energy Management System)
マンション内で使用している空調照明などの電力を「見える化」するとともに、電力需要のピーク抑制を可能とするシステム。